

「はげあたま」考

先月は地元で仏教について講演する機会がありました。高校、大学の同期会やシニア向けの催しなどで海外事情や比較文化等について話をするのもありますが、ポイントはいかに楽しく面白く飽きさせないか、ということです。そのためには最初から聞く人をこちらの舞台に引き込んでいくことが大切になります。その秘訣の一つは「自分を笑うこと」です。自分をおとしめている限りは、誰も傷つけることなく笑っていただけるからです。



そこで講演の導入部で、私は自分の特徴である「はげあたま」をネタにしています。今回も、皆さんに爆笑していただき、本来の講演のテーマにもよくノッていただきました。さわりは次のようでした。

床屋さんでのやりとり

さて、今日こちらにお邪魔したところ、会場に私と同じような仲間がいることを拝見して親しみを感じているところです。この頭です。先日、こんなことがありました。

私は年金生活に入ってから、現役時代と違ってできるだけ節約生活を心がけるようにしています。散髪もその一つです。床屋さんに行くのをやめ、けっこう手先の器用な家内がハサミを操り、私の頭を刈っています。これで、それまで毎月3000円から4000円かかっていたものがただになりました。

現役時代と違い、社内で身なりを整えることに気を使ったり、若い女性に気に入られようとする気遣いが少なくなったからです。本当はそれじゃいけないんでしょうがね。

「年を取るほどにおしゃれを」というのは女性ばかりでなく男性にも求められるものですが、私の場合、なんてたって髪自体がないので、頭のおしゃれの仕様がありません。

とはいっても、大事な行事に参加するときや、大切な人と会わなければならないときには、やっぱり床屋さんに行くんですね。

でも、この頭です。〈頭を下げて指でさす〉 他のお客さんよりも髪の毛のある部分がぐっと少ない。そこで散髪が終わわり料金を払う段になって、店主に交渉してみたんですね。

〈落語の話し方で〉

「マスター、ほらご覧のように、私の頭はほかの人の髪の毛の量の半分以下ですよ。禿げている部分はまったく手をかけなくてもよいし……。だから料金も少しは割り引いてくれませんかねえ」



と、そこの主人、なんて言ったと思いますか？

「旦那さん、そんな無理をおっしゃらないでくださいよ。確かに旦那さんの髪の毛は少ない。ですから、私としては一本たりといえども抜いたり傷めたりしてはいけないと思って、大変な気を遣ってハサミを動かしているわけですよ。逆にこちらが割増料金をいただきたいくらいですよ」 敵もさるもの、上手をいくもんですねえ。

あの中高年のアイドル、綾小路きみまろさんだったらこう言うでしょう。

「中学時代はイガクリ頭。高校時代は髪もふさふさの美少年でした。あれから50年――。

昔は目の前が明るかった。今、明るいのはこの頭だけ……」

ともあれ、頭が輝いていること即、人生が輝いていることには通じませんが、でも、頭の輝き

のように人生も輝かせていきたい、というのが今日の私の話の影のテーマであります。

<続いて表のテーマについて話を展開した後の結びに>

最後に私のモットーをご披露しておきたいと思います。

髪の毛が少なくても残念ながら散髪料金は安くならない。ならばと、私は率先してこの「はげあたま」的生き方を心がけています。

「はつらつ」と「げんきに」「あかるく」「たのしく」そして「まあるく」です。特にこの最後の「まあるく」が大事ですね。人生、すでに甘いも辛いも経験し、角が取れて「まあるく」なっているはずですから、今さら人間関係でギスギスしてもしょうがない。穏やかに「まあるく」いくことです。つまらない顔をしていると、つまらない人生になってしまいます。

私はこれからもこの「はげあたま」をモットーに生きていと思っています。今、髪の毛のふさふさの皆様も、どうぞこのモットーの実践だけはお勧めです。人生が明るく楽しくなってきます。

世界の文化比較から禿げ頭論へ、話しはあっちこっちに飛んでしまいましたが、皆さまの何かの参考となればこんな嬉しいことはございません。



禿げに関する研究はずっと昔から進んできました。日本では薄毛や禿げを気にする人が多く、かつらを含めた日本の育毛市場はさらに伸びていくでしょう。私自身もその一人でしたから。

ところが昨年、文学紀行の取材でドイツを訪れたとき、ゲーテ研究の専門家の女性とライン川のほとりで懇談しました。そのとき、ひょんなはずみから話は「髪」に飛んでいったのです。彼女は言いました。

「ヨーロッパでは、日本人よりはるかに禿げた人が多いですよ。でもみんな気にしない。大事なのは頭の外面より中身でしょう」。そんな言葉に意を強くし、訪れた先々で男性の様子を観察していると、やはり彼女の説の通りでした。

と、この原稿を書いている9月30日、長野県に住んでいる高校の同期生からメール網で面白いニュースが飛び込んできました。

9月28日付の信濃毎日新聞に『満月の会』が伊那市社協に寄付』といったタイトルの記事が掲載された、というもの。

——「暗い世の中を明るく照らそう」と、上伊那地方の髪の毛の薄い男性を中心につくる「満月の会」は27日、伊那市社会福祉協議会に現金3万円を寄付した。(中略)市社協で小池孝行会長に寄付金を手渡した橋爪さんは「これからも世の中を明るくしていきたい」と話していた。

橋爪氏はやはり高校の同期で売れっ子の漫画家。禿げの度合いは私以上でほぼまる禿げに近い。メールの発信人は:「本当は『はげた頭で暗い世の中を明るく照らそう』と書きたかったのではないかと推測しています。でも、まる禿げの本人の写真の掲載で(編集者は)ちょっと遠慮したのかな?」とも付け加えていました。

昔、宴会の席などで歌ったものでした。

♪・・・ドン ドン パンパ ドン パンパ



ウチの親父は禿げ頭 隣の親父も禿げ頭
禿げと禿げがけんかして どちらも怪我(毛が)ねえでよかったな・・・

そう、丸い禿げ頭は他人に怪我をさせないし、自分が明るく生きるだけでなく、その反射で社会を明るくするのに貢献(?)しているのです! なんちゃって・・・